

山陰〇〇新聞(20××年10月15日)

島根大学が倒産

「独立行政法人化」
で経営不振

路頭に迷う教職員

第1号

詳しくは裏面を!

そんなウソのような話が、「大学の構造改革」
がこのまま進められると、現実の話になるかも
しれません。



「法人化」について 真剣に考えてみませんか？



組合マス「ツ」
しまだいちゃん

第1話 「大学の構造改革」は島根大学の未来を潰します

「大学の構造改革」のねらいは？

全国の国立大学では、昨年6月11日に出された「遠山プラン」に沿って「大学の構造改革」が進められています。その内容は次の3つを柱としています。

1. 国立大学の再編・統合を大胆に進める
2. 国立大学を新しい「国立大学法人」に早期に移行する
3. 国立・公立・私立「トップ30」を世界最高水準の大学に育成する

全国では、教員養成系の大学・学部・学科の統廃合や、医科大との統合が進められ、わが島根大学でも検討が進められています。しかし、こうした改革によるメリットやデメリットについて十分な検討が行われていないのが実状です。「国家公務員の定員25%削減」の数あわせに使われている感さえあります。

大学の再編・統合と法人化の問題点

島根大学のような地方国立大学は、地方在住の子弟に対して高等教育を受ける機会を提供する重要な役割を果たしており、卒業生は地域の産業・行政・教育などの分野で活躍しています。

しかし、「大学の構造改革」は、これまで憲法で保障されてきた「学問の自由・大学の自治」を根本的に覆さかねない重大な問題点を持っています。例えば、近い将来には学費が私立大学並に高騰して、国民が等しく高等教育を受ける権利を剥奪する可能性が強いと考えられます。また、再編・統合によって地方国立大学は縮小させられる上に、法人化後においては「中期目標」を十分に達成できない場合、予算の大幅な縮減が避けられず、将来は「廃校」の危険性さえあるのです。そもそも過疎地域にある島根大学は、首都圏の大学と異なり「弱い市場」のもとで競争を強いられるのです。

法人化によって私たちの身分保障はどうなるのでしょうか？明日は、その点について考えてみたいと思います。